

〈解答〉

- ① 1 (記号) ウ (活用形) 終止形  
2 イ  
3 エ  
4 (ウ)

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

①

1 二重傍線ア「行う」は五段動詞「行う」の連体形、イ「検証する」はサ行変格活用動詞「検証する」の連体形、ウ「変わる」は五段活用動詞「変わる」の終止形、エ「導く」は五段活用動詞「導く」の連体形である。ア・イ・エの動詞は、それぞれ「ため」「方法」「こと」という名詞に接続していることから、ア・イ・エの動詞の活用形が連体形である。とわかる。一方、ウ「変わる」の場合は、その直後に接続助詞「が」があることに注目する。接続助詞「が」は終止形接続の助詞であるため、ウ「変わる」は終止形であるとわかる。

2 「一線を画する」は「境界線を引いてくぎりをつける」「はっきり区別する」という意味。「画する」は「線を引く」「区分する」という意味の動詞である。

3 ①のある文の文末が「からである」と、理由を示す表現で終わっていることに注目する。土器作りが好評を博している理由について、「だれでも参加しやすく、またできあがったものが持ち帰れるから」と述べているので、エ「なぜなら」が入るとわかる。

4 脱文挿入問題は、脱文中の「指示語」や「接続詞」などをヒントに解いていく。今回は、脱文のはじめに「言い方をかえれば」とあり、これが言い換えの接続表現「言い換える」と「換言すると」などと似た表現であることに注目する。つまり、「土器をまっふたつに切断(する)」という表現の言い換えになりうる表現が、この脱文の直前にあるということである。(ア) (オ) の直前の表現を見ていくと、(ウ) の直前に「土器を惜しげもなく切断する」とあることから、脱文がこの部分に入るといえることがわかる。